【令和６年度第４回】江差町総合計画等策定審議会

議事録

開催日時：令和７年２月17日（月）
午後３時半～午後５時
開催場所：江差町役場１階
保健センター

［出席者］

◎委員

会長	江差建設協会	会長	田畑	昌伸
副会長	北海道教育大学函館校国際地域学科	准教授	古地	順一郎
委員	紫世会	指導者	木村	香澄
	新はこだて農業協同組合	理事	小笠原	裕章
	江差町教育委員会	教育委員	高岡	広明
	江差中学校ＰＴＡ	会長	飯田	隆志
	江差脳神経外科クリニック	事務長	堀田	俊一
	北海道檜山振興局	地域政策課長	山本	勝博
	江差いにしえ資源研究会	事務局	中島	晶子
	公立はこだて未来大学	特命教授	藤野	雄一
	北海道放送株式会社函館放送局	函館放送局長	藤澤	正秀
	江差イベント企画	代表	久米	早苗
	認定こども園 江差幼稚園	園長	川口	衣澄
	地域支え合い協議体	会長	田上	香
委任状	一社）北海道江差観光みらい機構		浅見	尚資
	江差整骨院	代表	高島	慶太
	江差商工会	事務局長	羽原	法昭
	西野会計㈱江差事業部	専務取締役	三上	修吾
	江差町スポーツ協会	会長	金子	剛

以上 19 名（全 20 名中）

◎町

町長	照井	誉之介
まちづくり推進課長	布施	順司
〃課主幹	秋山	悦子
〃課まちづくり推進係長	中島	崇詞

◎委託業者

(株)ぎょうせい	主任研究員	木戸　隆

以上、合計 24 名

1　開会

（まちづくり推進課　課長　布施）

●次第に沿って進行。

2　会長挨拶

（田畑　会長）

●事務局では、R6 年 11 月 25 日の第 3 回策定審議会以降、委員の皆様からいただいた貴重な意見の整理や議会への説明も実施しているとのこと

●本審議会では、それらの総括として最終的な計画原案を提案いただき、審議会とし審議していく

●審議が終了し次第、町長へ答申することになるため、どうぞよろしくお願いします。

3　会議成立宣言

（まちづくり推進課　課長　布施）

●江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 3 項に基づき、策定審議会が成立していることを確認。

4　議長選出

（まちづくり推進課　課長　布施）

●江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 2 項に基づき、会長を議長に選出。

5　議事（1）報告第 1 号　　事務の取組状況

報告第 2 号　　パブリックコメント実施状況

（まちづくり推進課　課長　布施）

●第 3 回策定審議会以降の動きについて説明。

●R7 年 1 月 9 日開催の議会全員協議会の中で、宿泊税に関する質問がなされたことを審議会にも共有。そのうえで、コロナ禍以降、宿泊客数が未だ回復してない状況であることに加えて、宿泊税を取り入れている事例としてはオーバーツーリズムなどの課題解決の手法としての意味合いもあり、以上のことから事務局としては計画への反映はしないことで整理したい旨説明。

●パブリックコメントを R7 年 1 月 10 日から 2 月 10 日までで実施し、1 件の意見提出があったことを報告。

内容については、藻場再生の取り組みについての手法提案。

後期基本計画中には、既に「漁業生産基盤の整備（漁場づくり）」を記載しており、また、具体的な取り組み内容については、毎年度策定する実施計画の中で検討を進めていくことで後期基本計画の修正はしないとして整理する旨説明。

（古地副会長）

●議会全員協議会の中で、増永議員から前期基本計画の検証についての質問が掲載されているが、検証結果についてはその場で回答したか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

○前期基本計画の検証については資料が膨大になるため、議会全員協議会では配布していない。ただし、検証委員会で計画の検証をしており、またその資料については町 HP 上に掲載している旨説明。

（古地副会長）

●審議会の場でも議論されたが、資料が膨大なため計画の進捗状況を町民の方々にもわかりやすく伝える工夫を考えていく必要がある。

（田畑会長）

●宿泊税について事務局から説明があったとおり、宿泊客数が回復していない状況で取り入れるのは時期尚早と考えるがどうか

（委員からの異議なしを確認）

（古地副会長）

●議会全員協議会の中で、小野寺議員から江差マースの取り組みの質問に対して、福祉的な側面を持つ事業と回答しているが、交通インフラとして考えると福祉分野に限らず広い視点を持った事業だと考えるがいかがか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

○あくまで、「費用対効果を上げるためには成果指標は低いのではないか」という質問に対して、福祉的な側面を持つ事業であり費用対効果だけを追求していくことはなじまないと回答しているもので、ご指摘の通り福祉分野に限定している事業ではないと認識している。

（田畑会長）

●町民の方々に江差マースを使っていただかないと、地域公共交通としての格が上がっていかないため、わかりやすい形で実績の公表や広報宣伝を行ってほしい。

（高岡委員）

●小野寺議員の質問で広域連携の取り組みについて、重要性は認識しているが江差町単独の計画であるため掲載はできないと回答しているが、重要性を認識しているのであれば、方向性だけでも掲載はできるのではないか。
相手からの提案を待っているような消極的な回答に感じる

●かつて、江差町は五勝手村と泊村が合併し現在の状態になっている。現在は江差町と合併してくれるところはないが、火葬場は江差、乙部、厚沢部の３町で利用しており３分の１の負担で他地域より３倍立派な施設を使うことができる。もっとこのような連携を広げるべきではないか。

（藤野委員）

●合併ではなく、公共施設の共同利用などの連携は非常に重要な取り組みであり、掲載した方がいいと考える

（ぎょうせい　木戸研究員）

●一応、広域連携の政策項目については後期基本計画の中で掲載しているため、より具体的な掲載をしていくべきではないかという質問意図か

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

○小野寺議員の質問は、より具体的な連携項目を掲載できないかという質問だと認識している

○広域連携については検討していく必要はあるが、具体的な取り組みとなると相手方もいて調整も必要なため具体的な項目については現時点では掲載できないと回答している

（藤野委員）

●具体的な自治体名を記載することは確かに難しいと考えるが、例えば公共施設の共同利用等といった取り組みは記載できると思うがいかがか。

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

○今、議論としてあがった公共施設の共同利用については既に取り組んでおり、現段階では新たに具体的な連携を検討する段階には至っていないためご理解いただきたい

（田畑会長）

●近隣町の人口も減少傾向にある中で、檜山を広域で考えていかなければ行政サービスを提供できなくなってしまう。そのため、檜山の中心として江差町が率先して働きかけしていってほしい

（川口委員）

●江差幼稚園も広域連携の取り組みとして上ノ国町（幼稚園はなく保育所しかないため）のお子さんを受け入れており、他にも広域連携している取り組みはあると考えるため、そういった取り組みをアピールしていくことも大事と考える。

（飯田委員）

●地域の子どもたちが減少し、学校単独では部活が成り立たなくなっており、いろんな町の子ども達が合わさって１つのチームを編成している。
また、教職員の働き方改革ということもあり、土日の部活動の指導を地域の人たちでもできるように移行できないかという会議を行っている。
そこで問題と感じるのは、広域で取り進める場合、「まずは当該自治体の担当者に話を通してからではないと進められない」など、組織間の事務手続きに時間を要してしまい、他町の父兄間で少し協議すれば済むような話にも時間を要してしまうため、江差町が音頭をとり、まとめてくれると、もっとスムーズに動くのではないかと感じた。

（田上委員）

●障害福祉分野でいうと地域活動支援センターの仕組みを作るとなった時に、この辺の自治体が単独で立ち上げるというのは大変であるため、数町が補助金を出し合ってあゆみ共同作業所（地域活動支援センター）を立ち上げ、運営している。

●例えば、成年後見人の関係は、家庭裁判所の管轄として広域の取り組みで町からの業務委託で実施しており江差町はその仕組みはできているが、できていない町もある。
仮に、この仕組みを広域で実施するとなった時に、「江差町が率先してやりますよ」となると業務負担が大幅に増加する怖さもある。

●必要性は感じているが、マンパワーが不足している中で、率先して手上げはなかなかできないと感じる

（古地副会長）

●高岡委員の御指摘は非常に重要だと考える

●先週、定住自立圏の共生ビジョン懇談会という会議があり参加したが、やはり広域連携はなかなか難しい取り組みだと感じる

●もともと、この定住自立圏はドクターヘリを飛ばすことを目的にスタートしている。

●会議の中では、やはりこの人口の話題がすごく出たが、一つの自治体で考えることは、現実的ではなくなってきている。
例えば、公共交通の維持について公費を投入してでも維持するのか、しないのか。
しかし、公費を投入できるだけの余力が小規模な自治体にあるのか。
函館市だったらまだできるかもしれないが、函館市の税金で檜山の地域公共交通網を維持していくのか。
その点を考慮すると、行政の境目がどうしても出てしまう。

●「江差町が率先して檜山をけん引していくべき」という点も理解するが、率先して手上げをすると大変なことになることに加え、外交関係と同様に、何の了解を取らずに勝手に計画へ反映すれば、「そんなことは聞いていない」という話にもなる

●しかし、どこの時点で計画へ反映するかは別として、そのような話をしていかなければいけない。

●それは役場のレベルだけではなくて政治のレベルになってくる。首長の繋がりだけでなく、北海道や国という話にもなってくる

●現に体育館の共同利用は、町長同士で話をつけて実施しているわけで、政治的なリーダーシップをどう動かしていくか。それを動かしていくのはまさに議会や町民の皆さんの政治的な意思を集結していく必要があり、策定審議会もその一つだと考える。

●今後、地域でどういったプラットフォームを作っていくのか、例えば幼稚園の問題、福祉の問題というように、それぞれの分野で解決しているが、それらを全体のビジョンにどう繋げていくのか、今後江差町だけではなく日本の各地方で問われてくる

●ここで、山本委員に伺いたいのは、定住自立圏の話をしていても、北海道の役割が重要ではないかと話が出ており、北海道として役割をどのように考えているか教えていただきたい

⇒（山本委員）

〇定住自立圏っていう法定の枠組みの中で、広域で事業を実施してきている。

〇人口が減少していくことで、サービス利用者も減少し赤字が増大、それを補うために税金を投入し維持しているが、それもいずれ難しくなる。

〇これは、北海道だけではなく全国の都道府県も同じようなことが起きており、今まで世界が経験したことがない現象であると考える

〇北海道の役割としては広域調整があるが、この課題に対しての特効薬があるわけではないため、明るいことは一つも言えないのが現状である

（古地副会長）

●やはり、ここでこの議論ができたってことはすごく重要なことであり、誰が音頭を取るのかという議論になったとき、やはり一つは、北海道だと考える。

●江差が音頭を取るという事もいいが、そうするといろいろと角が立つ部分があるため、広域調整をやるのは都道府県の役割ではないかと考える

「どこが資金を投入すべきか」という話ではなく、少なくともそのような議論ができる場を作っていけるような気運を高めていくことが重要と考える

●しかし、山本委員がおっしゃったとおり、日本は未曾有の状態に入っており、逆に世界が日本、特に地方を見ている状況である。

そうすると、みんなで知恵を絞っていくしかないという話になるので、政治的な意思が必要であり、その政治的意思を町民の人たちがバックアップしていくことが重要である。

（田畑会長）

●広域連携の議論については、審議会でこのような議論があったことを町として認識していただき、今後の取り組みを推進していってほしい。

（藤野委員）

●江差マース事業について、費用対効果の面から成果指標が低いと質問があったが、成果指標を教えてほしい

●函館市も同様の実証運行を始めたところだが、タクシーとバスの間の公共交通として高齢者だけでなく、一般の人たちも十分使えるものと考える。

●例えば、幼稚園バスについて、定時路線として回っているが行き帰り以外は稼働していないはずのため、ワンボックスカーで運用できれば効率的になってくると考える。函館市は、タクシー会社とバス会社が運行しており、当然赤字にすることはできないため、市から補助金が出ていると考える

●江差町としても福祉的な側面をもつ事業だから費用対効果は考えないということではなく、きちんと成果指標を設定して運用していった方がいいのではないか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇江差マースに係る利用者の指標については、現状値 9.7 人/日（R5 年度）から目標値 10 人/日（R11 年度）（基本計画 85 ページ掲載）としている

〇数値については地域公共交通計画（個別計画）との整合性を取るために設定しているが、地域公共交通会議の中でも議論になっており、10 人/日を達成したから良しとするのではなく、利用者拡大に向けて努めていく

〇採算性については、町から運行委託費用をハイヤー事業者へ出しており、事業者は基本的に赤字になるようなことはない。
しかし、町の負担とすると大きな支出となることから、福祉的な側面がある事業とはいえ、少しでも財政的に負担軽減となるよう努めていく必要がある

（中島委員）

●そもそも江差マースは利用者が増えれば、赤字が減少する（費用対効果が良くなる）ような事業なのか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇運行委託費は 1 日あたりの貸切料金で支払っており、利用者が増えても経費は変わらないため、費用対効果は上がる。ただし、利用者の増加に伴い車両 1 台で運行できない場合は、車両の増加などで経費が増加し費用対効果は下がると考える。

（高岡委員）

●パブリックコメントを１ヶ月間にわたって意見を募集して、たった１人しか意見がなかったことについて、そんなに関心がない事業について時間をかけて議論する意味があったのかと感じる。

●１人しか来なかったことに対して、町としてどう考えるか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇周知については、町ホームページと広報紙で実施しているところだが、意見が１人のみだったという結果については周知方法に改善点があると考える

（古地副会長）

●今の指摘は非常に重要であるが、逆に言うと我々委員に関わってくる内容でもある

●我々委員もどれだけ周りの人に「パブリックコメントがあるから計画を読んで書いてほしい」と説明したのかと言われると、私自身もできていないため反省する部分がある

●これは、「自分たちごとのまちづくり」の広がりをどのように作っていくのかにつながってくると感じる

●もちろん役場の広報のやり方もあると考えるが、役場だけの話ではないということを私達も感じなければいけない。

●北海道の総合計画のパブリックコメントでは今回 700 件近く来た
岸田政権時、「こどもまんなか政策」という、子どもが社会を作っていく主体として捉えて政策の立案に子どもの声を聞こうと話が進んでいる。

●北海道はそれを実施し、学校の授業の中でパブリックコメントの意見集約を実施した
提出された子どもの意見は非常に面白く、元気づけられたり、自分たちが頑張らなければいけないという気持ちになれる

●そのため、５年前の第６次総合計画基本構想策定時には中学生にもわかるような概要版を作っていただいた。

●今後そういった子どもも含めて巻き込みを図り、逆に大人の気運を高めることにつながると良いのではないかと感じる

5　議案第１号　　計画原案（パブリックコメントで公表した案）からの変更点

（まちづくり推進課　課長　布施）

●パブリックコメントで公表した案から変更のあった内容について説明。

（田上委員）

●97 ページの「防災対策の推進」について、枠内から見切れている文書があるが変更等あったか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇見切れた文書は 98 ページにズレているが、内容に変更が生じたものではない

（田畑会長）

●変更点のうち、8,9 ページは後期基本計画の序論にあたり、まちが求める未来に向けて書かれている部分である

●本策定審議会にはせっかく、産業界や大学からも毎年のように参画をいただいているにも関わらず、それら多様な主体の参画について序論に掲載されていなかったことから私の方で追記をお願いしたところ

●先ほど、高岡委員などが議論していた広域連携についてなど、必要な項目があれば入れることも可能だがいかがか

（高岡委員）

●行政は計画に記載されてなければ実施しない。広域連携について明確に記載していくことで、意識が変わってくる部分もあると感じる。

（古地副会長）

●広域連携については他ページに掲載されているが、序論の中で掲載することに重要な意味があると感じる。

●修正するとしたら 9 ページ後段の下記文書になると考える

「この目標を実現するためには、行政だけでなく住民一人ひとりの参加と協力が不可欠です。さらに、産業界や大学など多様な主体の参画を得ながら、基本構想に掲げた･･･」

●しかし、現段階で計画の修正は可能か

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇修正できないということはないため、審議会の議論に委ねたい

（古地副会長）

●江差町単独の計画の推進に他自治体等が参画していくニュアンスをさけるため、広域連携は「産業界や大学など」との文書と分けて書く必要があると考える

●あわせて、「行政だけでなく」という表記を「江差町役場だけでなく」とした方がいいのではないか

（山本委員）

●答申書（案）の中で、「１　本総合計画に掲げた「誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくり　エエ町、江差」を、あらためて行政（官）・・・」と整理しているとこであり、整合性を保つのであれば「行政」という表記のままでいいのではないか

（古地副会長）

●山本委員のご指摘の通り、序論に追記する「広域連携」の文言のことを考慮すると、「江差町役場だけでなく」とすると制限がかかってしまうため、「行政だけでなく」という表記のままの方がいいと感じた

（ぎょうせい　木戸研究員）

●議論をまとめると９ページの「この目標を実現するためには、行政だけでなく住民一人ひとりの参加と協力が不可欠です。さらに、産業界や大学など多様な主体の参画を得ながら、基本構想に掲げた・・・」

に一文追加することでいいか

（田畑会長）

●そのように整理したい

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

○「この目標を実現するためには、行政だけでなく住民一人ひとりの参加と協力が不可欠です。さらに、産業界や大学など多様な主体の参画を得るとともに、他自治体との連携を図り基本構想に掲げた・・・」

と整理することでいいか

（当該整理で問題ないかを全員で確認）

5　議案第２号　　答申書（案）について

（田畑会長）

●これまでの審議会において委員の皆様の意見をまとめ、計画の趣旨や審議会での議論と整合性を持たせながら事務局と整理し取りまとめたもの

（答申書案を読み上げ、内容を委員と確認）

（田畑会長）

●広域連携の内容を記載する必要はあるか

（藤野委員）

●計画本体に記載してあるため、あえて追記する必要はないと考える

（古地副会長）

●審議委員みんなの想いとして、記載した方がいいのであれば追記してもいいと考える

（高岡委員）

●たった一行でも入れて意識が変わるのであれば追記してもいいと考える

（古地副会長）

●審議会の意思として江差町に伝える事ができる事に加え、その意思が記録として残っていくと考える

（田畑会長）

●追記するとしたら、答申書（案）中、１つ目の項目だと考えるがどうか

（山本委員）

●広域連携の内容を追記するとしたら、１つ目の項目もしくは５つ目の項目だと考える

（古地副会長）

●この答申書は Web サイトに掲載されるか

⇒（まちづくり推進課　課長　布施）

〇資料など一式掲載する

〇事務局として１つ意見を出すと、答申書（案）の１つ目の項目については、江差町が目指す将来像を記載しているため、他自治体との連携を追記すると、江差町の目標を他自治体が取り組むように見えてしまうため、追記するなら山本委員がおっしゃった５つ目の項目と考える

（古地副会長）

●なかなか整理が難しいことを考えると、藤野委員がおっしゃったとおり、計画本体に記載してあるため、答申書に追記しないことで整理しても良いと考えるがどうか

（田畑会長）

●広域連携については、計画本体の序論に記載されることとなったことから、提示した答申書（案）のままで答申したと考えるがどうか

（当該整理で問題ないかを全員で確認）

5　意見交換（自由意見）

（田畑会長）

●全体を通して、意見質問がないか確認

（意見等なしを確認）

（田畑会長）

●意見等なしのため、町長答申のため 10 分間休憩

（休憩、町長入室）

6　答申

（まちづくり推進課　課長　布施）

●答申の進行

（田畑会長）

●照井町長へ答申書を全文読み上げ、答申

7　町長挨拶

（照井町長）

●田畑会長から答申いただいたが、この間、まちづくり全般について、それぞれの立場から様々な意見があったと考える

●地方創生や地域の活性化が叫ばれる中、江差町としても様々な取り組みをしていきたい想いで、総合計画に基づいたまちづくりを進めてきているところ

●石破政権では、もう一度地方創生を見直すような動きがある中で、町としてもしっかりそれに則ってまちづくりを考えていきたい

●産学官金労言、様々な立場から、町民の皆様だけでなく、大学の先生やマスメディアの方、また北海道庁の方など、町外あるいは町民とは違う立場からもご意見をいただきながら、本総合計画後期基本計画の策定にご尽力いただいたと考える

●今日いただいた答申をしっかり踏まえて、夢のあるまちづくりを、しっかりと町民の皆様とともに進めていきたい

●是非、総合計画をしっかり具現化するように全力で取り組んでいきたいと思いますので、引き続き皆様にはご協力、お力添えをいただきたい

●本計画の策定にご協力いただき、ありがとうございます。
今後ともよろしくお願いします。

8　総括

（田畑会長）

●４回にわたる審議会を実施してきたが、委員の皆様本当にありがとうございました

●委員の皆様からの様々な意見を反映させて、総合計画後期計画を作成することができたのも、皆様の忌憚のない意見、そして（株）ぎょうせいの方々や役場の方々が、真摯にそれを受け止めて計画に盛り込んでいただいた結果だと考える。

●1 年間という期間であったが、またどこかでこのような会があると思うため、その時はどうぞよろしくお願いします。

（古地副会長）

●いつもこの会議を楽しみにしており、様々な意見が出るたびに「さすが江差だな」と思いながら、この会議に臨んでいた

●この１年、様々な観点から議論ができたと考える。また、意見が出た際には職員の皆様にもいろいろと苦労をかけたと思うが、真摯に答えていただき感謝する
また、（株）ぎょうせいの方もいつも親身に我々のことをサポートしていただき本当に感謝申し上げる。

●今年度、計画を作るにあたって第１回で皆様が集まったときにも申し上げたが「人がいない」という話が出たのが私にとっては最も印象的だった。

●5 年前にこの計画ができたときは、私達はそれをわかっていたし、もう既に江差で人が減ってるっていうことはそれなりに実感をしていたが、それがいよいよ、その度合いが増し、加えてコロナという大きな試練を通して、なおさら強くなったと感じている。

●しかし、これは江差だけの話ではなく、日本全国の特に地方で人が足りないという話になっており、そういった中でこの町をどう作っていくのかという話になると今日前半でいろいろと議論したことになる。

●解決のためには魔法のようなものはない。「まち」は勝手にできるものでもないし、ましてAI が作るものでもない。やはり人がいてこそ、「まち」はできあがる

●そのため、この江差町という「まち」を維持するために、もしくは発展させていくためにどれだけの人が必要なのかっていうことをこれまで以上に考えていかなければいけない。

●その中で、議論となった多様な主体をどう巻き込んでいくかという話だが、お祭りなど、今まで江差の歴史の中でやってきたことだと考える。
それを改めて、この人口減少時代の中でどのようにやっていくのかを考えていかなければいけない

●私自身もいろいろ関わらせてもらっているため今後も、一緒に伴走できればと思っているためよろしくお願いします

●加えて大事なことは、今後しんどくなっていったときに、明るいマインドを持つということが重要だと考える。私も自戒を込めて言うが、言葉を明るくしていきたいと思う。

●例えば、この総合計画の中にインフラの話とかもあったと思うが、「橋ができたね」「改修できてよかったね」など、リソースが足りない中でもきちんとできたことを評価していくこともすごく大事なことだと考える。

●そのため、お互いに「何やっているんだよ」ではなく、「よくできたね」や「良くするためにはどうしたらいいか」というマインドに持っていくことが大切と考える

●それはまさに「自分たちごとのまちづくり」をどう広げていくのか
それこそ、パブリックコメント１名というのがどうなのかという話も自分たちごとのまちづくりを広げられていなかった部分もあると考えるため、どう広げていくのかを、これから５年間やっていけるといいと思う。

●5 年後にまた希望を見ながら、まちづくりを町民の皆様の力や道庁の力も借りながら、やっていければいいと感じるため、よろしくお願いします。
本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

（田畑会長）

●本会をもって策定審議会が終了になることから、各委員の皆様からも一言ずついただきたい

（久米委員）

●私自身はこのような会議に関わる部分が結構あるが、なかなか私の仲間や同年代の子育て世代の人たちでも、なかなか深く考える機会がないようなので、これからも折に触れて、いろんな話をしていけたらなと思う。ありがとうございました。

（川口委員）

●私自身江差町民ではないが、江差で長く仕事をしているため、少しでも江差の良いところを発信していけたらと考える

●この審議会に携わり、様々な立場の人たちの意見を聞く中で、それぞれ意見はあるが、根本的には江差を良くしていきたいという想いはみんな一緒だと感じたため、
その気持ちを私の立場からも町民に伝えていけたらいいなと感じた。ありがとうございました。

（田上委員）

●1 回目の会議のときに、前期基本計画策定からもう 5 年が経っていることに、その時間経過の早さに驚いた。

●この先の 5 年後、「私達は人口が少なくなることを見越してたよね」というところに立ち返ると、今後さらに 5 年後となれば、また違った課題の見え方、捉え方をしていくことになると考える

●しかし、策定審議会への参加を通じて自分が直接関わらない分野の方々の話が聞けて、自分が江差のために動いていることがどう位置付けられ、どう影響しているかを整理しながら、この 5 年間に一つずつ何か根づかせていけたらいいなと最後に思っているところ。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。

（中島委員）

●皆様、5 年前との比較の話が多かったように感じるが、私自身も子どもの成長とともに興味関心が変化していき、5 年前に「こういうのがほしいな」と思っていたのが、今はもう全く違うことを考えているため、いろいろな世代の人がこの会に関われたことは大事だと思い聞いていた。

●次はもっと若い世代も含めて議論ができればいいと感じた。ありがとうございました。

（木村委員）

●私もこの会議に参加して皆さんの話を聞き、貴重な経験をさせていただいたと感じている

●私も江差が大好きで、何年か江差を離れて生活している時期もあったが、改めて「これからもずっと江差で生きていきたい」と思ったし、自分も周りも、小さい子どもたちも、「やっぱりこの町で生きていきたい」と思えるような取り組みをこれからも携わっていけたらと感じている。ありがとうございました。

（飯田委員）

●今回この会議に参加させていただき、江差町の学校教育についていろいろと話をさせていただいたところ。

●またこういった機会があれば、より良く改善していきたいと思うので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

（堀田委員）

●会議への参加については、いつも場違いな感じで恐縮していたところだが、メンバーを見たところ医療関係者が私だけでそういう面での委嘱だったと理解して参加していたところ

●町長ご存知のように南檜山２次医療圏で江差町だけが国民健康保険診療施設がない地域であるが、やはり医療という分野は避けられないため、今後考えていかなければならないと思う。ありがとうございました。

（高岡委員）

●いろんな分野の方と話ができて、とても楽しく過ごさせていただきました。
皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

（小笠原委員）

●江差町の農業者の代表として、この会議に参加しているところだが、今現在、役場と農業者との間の連携はとれており、特に計画全般として、そんなに意見を言うこともなかったと考える

●また、農業以外の話もいろいろ聞けて、勉強になった。ありがとうございました

（藤澤委員）

●昨年の夏から参加したが、皆様のお役に立つというよりは圧倒的に学ばせていただくことばかりで、大変申し訳なかったなと感じている

●パブリックコメントのときにもっと告知していればよかったなと、気がつかずにやり過ごしてしまい大変申し訳なかったなと反省しているところ。

●公平でなければいけないとは思うが、今後個人的には江差町の発展に思いっきり肩入れして、やれることは協力させていただきたいと思うため、今後ともよろしくお願いします。また、頑張ってください

（藤野委員）

●私も途中から参加させていただいて皆様の本当に切実な状況、想いなどを聞き、これから様々なことをやっていかなければいけないと思って聞いていました

●函館の大学には学生たちはいるが、半数以上が内地の方から来ており、函館市内出身者は１割を切っている。北海道の中心でも似たような状況にある。

●そのため、函館市の問題を挙げても住んでいるから実感はあるが自分ごとの問題として捉えていないという感じがする

●しかし、彼らの若い力は様々なところでニュースになっているし、様々な成果も出ている。松前町では、学生を連れて行って高齢者施設に泊まりでお手伝いさせてもらったりしたこともあり、機会があれば、是非学生たちを連れてきてそういう機会や体験をさせてもらえればと考える

●もう一点、この１年で AI がすごく発展し、前回は ChatGPT の話も少ししたが、この時間を使って Gemini という AI を使って江差町の課題を聞いてみたところ、今まで議論していた例えば「産業の衰退」、「交通インフラの課題」、「空き家問題」、「地域コミュニティの期待」なども出てきて、それをまとめて文書として作ってくれる。

●このような状況のため、これからこういうものが使えるような自治体になってほしいと思います。ありがとうございました。

（山本委員）

●北海道職員として地域の課題に向き合うとすごく悩んでしまうこともあった

●私自身 20 年前に１年だけ乙部町に住んでおり、今江差町は３年目だが、やはり江差町は地域の中心である部分があり行政都市としての成り立ちもあれば、姥神や江差追分のような素晴らしい歴史文化がある

●そういった中でこういう誇りを持って住んでいる部分について、今回計画に皆様の意見を少し反映できたことが良かったと感じている

●本当に私自身この１年間議論に参加できたことが非常に宝物になっている。ありがとうございました。

（まちづくり推進課まちづくり推進係　係長　中島）

●皆様お忙しい中、毎回の会議で大量の資料を送付し大変申し訳なく思っていたが、計画をなんとか完成することができた

●しかし、計画は作って終わりではなく、その計画をどうやって動かしていくかということが一番重要になってくる

●R7 年度からは実施計画の策定をしていくため、検証の中で、また、忌憚のない意見をいただきたい。引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

（まちづくり推進課　主幹　秋山）

●皆様への意見の投げかけや、逆に様々な意見をいただいたところ

●後期基本計画が始まるのが令和７年度からで、なんとか間に合うような状況でほっとしている。

●この計画が皆様にとって有効な活用ができて、実のあるものになるように頑張っていきたいため、これからもご協力よろしくお願いします

（まちづくり推進課　課長　布施）

●1 年間ありがとうございました。

●私自身、不慣れで足りない部分もあったかと思うが、皆様のご協力のおかげで計画の作成が完了する運びとなった

●この計画に基づいて江差のまちづくりを進めていくという部分で重責を担っていると考えているため、引き続き皆様に様々なご協力をいただきながら進めていければなと考えている。

●初めての立場で、いろんなご意見が心に刺さった部分もあったが、そういう部分も含め、しっかり頭に入れながらまちづくりを進めていきたいと思う。
ありがとうございました。

9　その他

（まちづくり推進課まちづくり推進係　係長　中島）

●最後に全員で記念撮影する旨、事務連絡

10　閉会

（田畑会長）

●令和６年度第４回江差町総合計画等策定審議会を閉会。